

群馬県立しろがね特別支援学校 学校評価一覧表(令和6年度版)

(様式)

羅針盤			主な分野	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①保護者の80%以上が、たよりや学校のホームページから学校の様子がよくわかると感じている。	教務部	○Webページの掲載内容に係る担当者が2週間毎にWebページを確認し、タイムリーでわかりやすい記事の更新に努める。	A	A	A	Webページの掲載内容の確認を随時行い、最新の情報を掲載すると共に、掲載内容及び掲載位置、バナー等の検討を行い、より見やすいWebページの作成を心掛けた。	-	今年度、検討を行ったWebページの掲載方法の検討を進め、より見やすく、分かりやすいWebページを目指す。また、学部や係等での掲載内容を再度確認し、情報発信を積極的に行う。
		②PTA活動を年3回実施し、参加率が70%以上である。	渉外部	○本部役員と連携して行事を運営する。また、PTA活動についてWebページで積極的に発信する。特に、しろがね祭については事前準備や当日企画等、項目を複数設定し、参加しやすくする。	A	A	A	PTA総会を书面議決による開催や施設見学、奉仕作業など、通知を出すことにより多くの方に参加させた。しろがね祭では前日準備や当日の運営等、多くの方に協力をいただいた。	-	本部役員の方と協力し、参加しやすい環境作りや情報交換の場を充実させるとともに、たより等を通じてPTA活動の発信・周知を積極的に行い、より多くの方に参加をいただけるようにする。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③保護者の80%以上が「個別の教育支援計画」の内容について、関係機関と共有できる内容となっていると感じている。	渉外部	○保護者面談や連絡会議において、学校と家庭や関係機関がともに生徒の長所を伸ばすことを中心に話し合いを進め、支援内容について合意形成を図る。	A	A	A	・最初の学園生保護者面談の前に、学園職員と支援の基本方針について共通理解を図った。 ・保護者や学園職員から聞き取りをしながら、個別の教育支援計画を作成した。	-	・学園と再確認した連絡方法について年度始に本校職員への周知を図り、円滑に業務を進められるようにする。 ・通学生については、丁寧に保護者に連絡をとっていく。
		④交流及び共同学習実施の意義や交流形態について、保護者や関係機関の80%以上が賛同している。	渉外部	○交流相手と話し合い、間接交流も含め、安全な交流形態を選択する。交流の意義について再確認し、継続して交流できるようにする。	A	A	A	・直接交流を2回、間接交流を3回実施した。実際に合った内容で、充実した交流を図ることができた。	小学校で、小学部児童と交流が行われ、大変良い交流となった。小学部児童だけでなく、中学部生徒との交流も行いたいと思った。検討してほしい。	・事前に相互の交流の意義を確認してから行うようにする。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言・援助に努めていますか。	⑤地域の幼保小中学校等から年間200件の要請を受けて助言・援助に当たり、担任の取組に改善が見られた割合が80%以上である。	渉外部	○先生方の頑張りを認めるとともに、大まかな方向性を話し合いつつ確認する。その上で自信を持って指導改善できるよう助言する。	A	-	A	・相談を依頼してきた担任や学校のニーズをよく聞き取り、丁寧に対象児童生徒の実態を伝え、支援内容を提案してきた。	小学校にダウン症の児童が入学し、手探りでの対応に苦慮している。専門アドバイザーの取組を紹介していただき、専門家の活用を考えていくヒントとなった。	・担任の話を詳しく聞いた上で、困っていることを整理し、前向きに保育や教育に向かえるような支援を心がける。
		⑥地域の学校等で、60分ケース会議を含む研修会を実施し、指導の参考になった教職員が80%以上いる。	渉外部	○教職員研修で、わかりやすい授業作りを提案し、特別支援教育の視点を取り入れてもらう。60分ケース会議の意義と効果について丁寧に説明する。	A	-	A	・各学校の相談や講演会の研修内容として、「特別支援教育の視点を取り入れた指導」について提案してきた。60分ケース会議についても紹介した。	-	・事前の打ち合わせを綿密に行い、ニーズを詳しく把握してから研修会を実施する。 ・60分ケース会議の普及に努める。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導を行っていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦個々の児童生徒のニーズに応じた教材教具(ICT機器の活用含む)を工夫した指導・支援ができると回答する教員が80%以上である。	学習指導部	○教材教具を工夫した実践事例などの情報(ICT機器等の活用含む)を収集し、研修を行い、授業改善につなげる。	A	A	A	・昨年度に引き続き、教材データの集約を呼びかけた。また、主に新任者対象ではあるが、各教科や自立活動など幅広い内容の研修も行った。	個別に対応した環境設定、視覚的支援、教材や指導の工夫がとて参考になった。	・集約した教材について、更に細かく発達段階や実態に応じた分類や整理を行う。
		⑧80%以上の保護者が「個別の指導計画」について、保護者の願いや児童生徒の実態に合った目標・内容となっていると感じている。	学習指導部	○「個別の指導計画」についてわかりやすい表記と説明のもと、連絡会議や保護者面談で意見をいただき、必要に応じて加筆・修正する。	A	A	A	・学園との連絡会議や保護者面談を活用して保護者の意向を聞いたり、学校での取組や課題を説明したりして、合意形成を図りながら目標の設定をした。	学校が「ステキな社会人」というキーワードを掲げ、学校全体でそのような社会人を目指した指導を行っていることがとても良いと思った。	・引き続き連絡会議や保護者面談を活用して、保護者の願いや児童生徒の実態を把握し、将来を見据えた個別の指導計画の作成を進める。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑨80%以上の教員が個別の指導計画を作成するために校内研修が参考になったと感じている。	学習指導部	○アセスメント、3観点別の評価等について教職員間で検討をしながら研修を進めていく。 ○新任者に対して、アセスメントの実施方法や個別の指導計画についての研修を行う。	A	-	A	・個別の指導計画の書き方について、全職員対象に研修を行った。太田ステージの実施方法についての研修や係への質問シートも活用した。	-	・次年度以降、新しい形式となる個別の指導計画の統一様式に基づいた記入方法や運用の仕方等について、周知徹底する。
		⑩「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が80%以上である。	学習指導部	○アセスメントの結果を踏まえた目標設定やその手立て、評価となっていることを、担任、学年、学部で計画的に検討し、定期的に目標を見直す。	A	A	A	・個別の指導計画の検討会を各学部や学年単位で各学期に実施し、児童生徒の実態や将来を見据えた上で、達成可能な目標設定となるように複数人で検討した。	-	・引き続き、児童生徒にかかわる複数の教員による個別の指導計画の検討会を行い、達成可能な目標設定や手立ての検討を行う。
		⑪アセスメントに基づいて個別の指導計画の目標を設定したり、目標達成のために授業の単元や題材を設定したりして、よりよい授業づくりに努めていると回答する教員が80%以上である。	学習指導部	○定期的に協議しながらアセスメントを行い、実施に向けて計画的に教職員へ周知する。 ○新任者に対して、アセスメントの実施方法や個別の指導計画についての研修を行う。	A	-	A	・主に新任者を対象に太田ステージによる実態把握の研修を行った。年度当初に、該当学年の生徒には太田ステージの実施を依頼した。	個性や特性が様々な児童生徒への対応について見習いたいと思った。強度行動障害や愛着障害への対応もとても興味深い。	・アセスメント結果と学習指導要領の既習事項記録を照らし合わせた目標設定や手立ての検討が行われるよう、更なる充実を図る。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、関係者の80%以上が情報共有できていると感じている。	保健部	○連絡会議や家庭訪問、行事等の保護者と話ができる機会を活用して、健康に関する情報を共有し、配慮や対応について共通理解を図る。	A	A	A	・保護者面談や学校行事、登下校時や連絡帳、健康観察表など様々な場面や手段で、配慮や対応について日頃から保護者等との情報共有、共通理解等を図ることができた。	-	・今年度同様、健康上の配慮や緊急対応について、保護者等との連絡を密にし、職員への情報共有や共通理解を図るとともに、校内体制の確認を継続する。
		⑬安全点検を全教職員で毎月実施し、危険箇所改善率が95%にする。	安全環境部	○点検・危険箇所の報告が速やかに行えるように、安全点検の形式を電子化し、危険箇所に関する情報や修理・改善等の対応について全教職員で迅速に共有、共通理解を図る。	A	A	A	・安全点検に関して危険箇所の情報共有をしやすいように、毎月点検のアナウンスを行い、電子化した。入力したものを係に提出し、確実に点検が行われるよう環境を整えた。	校内には児童生徒に対応したユニバーサルデザインも施されており、とても参考になった。	・改訂した安全点検表について適宜見直しを行いながら運用の定着を図る。また、さすまた等の物品について設置箇所や設置数の再検討を行い、適切な設置を進めていきたい。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑭業務の削減・廃止や改善、ICTの活用等により、80%以上の教職員が、多忙化解消に向けた取組に前進が見られると感じている。	教務部 事務部	○教育活動やその他業務でのICT活用、会議や行事等の短縮・削減、形を変えての実施、事務手続きの簡略化等により、業務改善に向けた取り組みを進めている。	A	-	A	・対面式とクラス団結式を合わせて開催するなど行事運営の効率化を図った。また業務改善推進委員会を中心に、業務改善の成果を吸い上げ、月に一度成果の報告を行うことができた。	「しろがねワークライフバランス」の取組は良い、参考になる。働き方改革が特別支援学校にも及んでいることを感じた。	・引き続き業務改善推進委員会を中心とした業務改善を全職員で進めていく。業務改善によって教育の質の低下や不適切な事案の発生が起これば、折に触れて注意喚起していく。
		⑮心肺蘇生法の講習会を年1回、救急対応訓練等を学部(高等部は学年)毎に実施し、80%以上の教職員が対応について理解している。	保健部	○想定できる場面について講習会や訓練を行い理解を深めるとともに、緊急時の対応について共通理解を図る。	A	A	A	・心肺蘇生法の講習会を実施した。緊急対応訓練を学部・学年ごとに毎に実施し、より実践的に訓練することができた。実際に緊急対応が必要な際に迅速に対応することができた。	-	・ヒヤリハット事例を職員間で共有し、確認することで危機管理の意識を高め、全職員が実際の緊急時に適切に対応できるように、今後も継続的に講習会や訓練などの研修を実施していく。
8 キャリア教育の観点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。	9 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	⑯キャリア教育に係る授業を80%以上の教員が、年間3回以上行っている。	学習指導部	○キャリア教育全体計画を教職員に配付する。キャリア教育の視点に立った授業を実施し、他学部へ発信し共有する機会を設定する。	A	A	A	・キャリアパスポートの見直しを行った。キャリア教育の指導内容や目標は多岐にわたるが、社会参加を目指していく上で特に必要内容に絞っていくことが大切であり、課題である。	キャリア教育については理解が十分に広まっている面もあると思う。教職員の足並みを揃えながら徐々に浸透させてほしい。	・キャリアパスポートの作成だけでなく日頃から将来を見据えた学習指導を意識できるように、キャリア教育の概要や性質、内容の精選の在り方等について、全職員への周知徹底をする。
		⑰学校からの進路に関する情報について、保護者の80%以上が満足している。	進路指導部	○進路だよりの内容を充実させ、Webページ等を活用し、速やかに情報を提供していく。また、進路先や関係機関との情報交換を計画的に進め、新しい施設等の情報を保護者に提供していく。	A	A	A	・進路だよりの内容をより充実させ、校内の活動だけでなく、群馬県からの情報を掲載する他、新規事業所の情報を積極的に掲載し、速やかな情報提供を行った。	-	・進路だよりやWebページを活用はもろろんのこと、事業所を実際に見学する機会もさらに充実させ、より正確な情報を提供できるように工夫していく。
9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	10 関係支援機関や実習先、保護者との情報交換を年間3回以上実施し、その結果として保護者の80%が、関係機関等との連携が深まったと感じている。(高等部)	⑱関係支援機関や実習先、保護者との情報交換を年間3回以上実施し、その結果として保護者の80%が、関係機関等との連携が深まったと感じている。(高等部)	進路指導部	○ケース会議、個別面談、実習先との面談等に担任に対して進路指導主事から助言、または必要があれば同席する。	A	A	A	・担任と保護者面談前に進路選択についての相談を実施することなど、担任に対しての情報提供を充実させた。また、進路指導主事が保護者会や面談に同席し、進路選択に関する情報提供を行った。	学校も個別の対応等、大変な状況である。事業所としても学校に丸投げにならないような姿勢でいたい。	・進路選択をより良くできるように担任への情報提供を行い、進路指導主事等が、保護者面談にも積極的に参加していくなどの工夫をする。
		⑲関係機関や教職員間で連携しながら実施している就業体験(校内・校外)が、就業への意欲を高めることにつながっていると、保護者の80%以上が感じている。(中学部・高等部)	進路指導部	○実施計画について教職員間での共通理解を徹底し、関係機関とも綿密な打合せを行う。成果を授業内や保護者面談、Webページ等で積極的に発信する。	A	A	A	・進路だよりやWebページを活用し、校内就業体験での活動の様子や校外就業体験の実施報告、希望調査から就業体験実施までの流れ等、保護者のニーズに合わせた情報を提供した。	高等部生徒の現場実習を受け入れたが、生徒はよく頑張っていた。就労等につながるよう今後も頑張っていく。	・関係機関の情報を整理し、よりの確かな進路指導ができるように準備する。Webページ等を活用し、保護者への情報提供を継続的に行う。